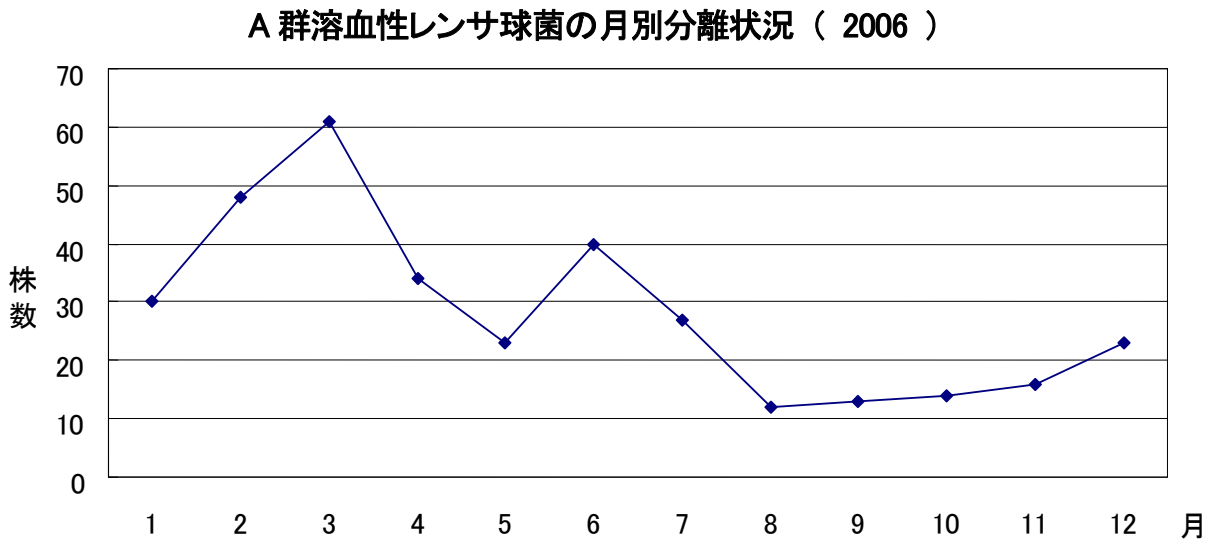
SIASR (Saitama Infectious Agents Surveillance Report)

A 群溶血性レンサ球菌の分離状況について(2006)

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点把握の五類感染症で,幼児,学童を中心に毎年季節的な流行を繰り返しています。埼玉県衛生研究所では,県内の小児科定点と民間検査機関の協力により,上気道炎患者咽頭拭い液からの A 群溶血性レンサ球菌の分離と送付菌株の血清型別等の検査を実施しています。 2006 年 1 月から 12 月に分離された A 群溶血性レンサ球菌は 341 株で,月別の検査数では,3 月にピークがみられました。



2006 年の分離株を年齢階級別でみると,0～9 歳からの分離が最も多く 183 株(53.7%)で,以下 10～19 歳で 55 株(20.0%),30～39 歳で 45 株(13.2%)の順でした。血清型別では,型別不能 (UT) を除き 14 の血清型が分離され,その中で最も多く分離された血清型はT1 型(34.6%)で,次いでT12 型(19.6%), T25 型(10.9%),T28 型(9.7%)の順でした。2006 年は, 2004 年から 2005 年にかけて最も多く分離されていた T12 型に変わり,T1 型による流行があったと考えられます。